

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

(財政状態の分析)

当第 1 四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ281億円増加して9,616億円となりました。現金及び預金が84億円、棚卸資産が141億円、有形固定資産が48億円、投資有価証券が14億円増加し、受取手形、売掛金及び契約資産が18億円減少しました。

負債の部は、前連結会計年度末に比べ233億円増加して6,277億円となりました。借入金、社債、コマーシャル・ペーパーの残高が3,425億円と前連結会計年度末比で187億円増加し、支払手形及び買掛金が12億円減少しました。

純資産の部は、為替換算調整勘定の増加により、前連結会計年度末に比べ47億円増加して3,338億円となりました。その結果、自己資本比率は前連結会計年度末から0.4ポイント低下し31.9%となりました。

(2) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

世界経済は、回復傾向をたどるとみられます。しかし、インフレ率は高止まりしているほか、金融引き締め政策考
が銀行 嗜 債、どるほか、

第3 【提出会社の状況】

1 【栞瀆 ㊦

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず記載することができないため、直前の基準日（2023年3月31日）に基づく株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2023年3月31日現在

--	--	--	--

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

(追加情報)

|

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自20累期間) 額 漸 雑

(セグメント情報等)

【セグメント情報等】

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

1 擠のとおりであゆ

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月8日

古河電気工業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

広瀬

勉

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

E01332)

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認